

「URまちとくらしのミュージアム」の見学会を実施しました!!

日本複合・防音床材工業会では、資材流通委員会主催で工業会の正・賛助会員を対象に会員の知見アップを目的とした各種見学会を企画・開催しております。

今回は2023年9月に開館した「URまちとくらしのミュージアム」(UR都市機構)の見学会を実施しました。

- 日 時：5月17日(金) 13:00 ~ 14:30
- 場 所：「URまちとくらしのミュージアム」東京都北区赤羽台1-4-50
- 見学者：14名
- 対 象：工業会の正会員及び賛助会員(見学は無料、現地集合・現地解散)

【概要】

UR都市機構は、前身となる1955年設立の日本住宅公団の頃からわが国のまちづくりの先導的役割を果たしてきました。歴史的価値の高い集合住宅4団地計6戸の復元住戸をはじめとして、映像や模型展示をとおして、都市や集合住宅でのくらしの歴史やまちづくりの変遷を見学しました。なお旧赤羽台団地内の住棟4棟が2019年、国の登録有形文化財(建造物)に登録されています。



【復元住戸】

○同潤会代官山アパートメント

1923年に発生した関東大震災の住宅復興のために設立された財団法人同潤会が、1926年に建設した鉄筋コンクリート造の集合住宅。当時としては最先端の文化的な賃貸住宅団地でした。興味深かったのは、当時の電気料金は現在のように電気使用量に課金されるのではなく、照明機器の数に応じて課金された事。電気代節約のため照明機器の数を最小限に抑えたため、全体的に暗い室内だったようです。

○蓮根団地

1957年に建設されたDKを持つ住宅形式を日本で初めて生み出した団地。ダイニングでイス座での食事をする生活を促すため、予めテーブルが備え付けられていました。食卓と台所を一体化し独立させた住宅形式は、瞬く間に一般的な部屋の標準となりました。



【団地・まちづくり】

4面スクリーンでの映像や関連資料をタッチモニターで検索できるメディアウォールなどにより、戦後の住宅不足解消のための標準化・量産から豊かさを求めた多様化、今日の団地再生・ストック活用とUR都市機構が取り組んできたまちづくりを勉強しました。

特に6戸の復元住戸を見学する事で、この100年で住生活がどのように変遷していったか体感することができ興味深い見学会となりました。



※日本複合・防音床材工業会では会員を対象に適宜、展示場や工場見学を実施しています。